



# 進路だより

令和5年3月10日（金）発行  
福井県立盲学校進路指導部

待ちに待った春の到来です。幼稚部、中学部、高等部普通科、保健医療科を卒業される皆さん、御卒業おめでとうございます。4月からは、それぞれが新学部へ、また、自分で選択した場所へと新たな道を歩んでいきます。これまで学んだことや培った力を存分に発揮し、さらに努力を重ね、それぞれの進路先で活躍してほしいと思います。

今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、各学部と連携し、また、各企業・福祉施設等、関係機関の方々に御支援をいただきながら、様々な進路行事を実施してきました。児童生徒、保護者の皆さんには、進路を考える機会として、活用していただけたでしょうか。今回は、主に後期に実施した進路関連行事を中心に報告します。

## 後期 進路関連行事・学習 報告

### 幼稚部

#### 関係機関との連携の中で

#### 幼稚部5歳児担任

幼稚部5歳児は、入学時から保護者の希望により、月1～2回程度オレンジキッズケアラボの保育所等訪問支援サービスを利用しています。言語聴覚士の方に食事の様子を見てもらい、食事指導についてアドバイスをいただくなどしてきました。また、学校と併用して、児童発達支援センターつばさを利用しています。生活全般の支援には、相談支援員さんが関わっておられます。相談支援員さんとは定期的に連絡を取り合い、学校での日々の様子を伝え、支援員さんからは福祉関係の情報等をお聞きすることができました。

これまで、必要に応じて関係者が集まって支援会議を開き、情報交換を行い、よりよい支援について考え、共通理解を図って取り組んできました。

4月からは小学生になりますが、保護者の方の思いに寄り添い、就学後も元気に充実した毎日を過ごせるよう、今後も各関係機関の連携が大切であると感じています。

## 小学部

### 校外学習

### 小学部 5 年担任

小学部では「社会科学習の一環として様々な施設を見学し、社会の仕組みへの興味・関心を育て、働く人たちの工夫や苦勞を知ること」「校外での様々な活動を体験し、いろいろな人とのかかわりを広げ楽しむこと」を目的に、年数回の校外学習を実施しています。今年度は、タケフナイフビレッジ、福井市中央卸売市場、福井エフエム放送株式会社、株式会社米五を訪れました。児童は様々な施設での見学や体験を通して、自分たちの生活が多くの人たちの仕事と密接に関わっていることや、働くことの大変さと重要性を学ぶことができました。今後もこうした活動を重視しながら、児童が身の周りの仕事や環境に関心をもち、将来の自立と社会参加について考えられるよう支援していきたいと思えます。

### F M福井放送局の見学

### 小学部 5 年 児童

F M福井放送局のスタジオ見学では、CMや音楽を流す時間がとても細かく決められていて、おどろきました。また、アナウンサー1人とサブ2人の合計3人で放送していました。分かったことは、3時間半の朝の番組を作るのに、なんと7時間もかかっていることです。

次に、集録室に入って原こうを見せてもらいました。息つぎのところに印が書いてありました。アナウンサーとも話をしました。常に笑顔で、はきはきとしゃべっていました。

F M福井放送局に行って感じたことは、一つの番組を作るのにたくさんの人が関わっているということです。



## 中学部

### 作業学習：カレンダー・名刺・金封作り

中学部3年 生徒

今年の作業は、いろいろなことに挑戦しました。

月曜日は、紙すきをしました。すいたときに、きれいな色が出ていて、良かったです。

水曜日は、名刺を作りました。たくさんの先生方に買っていただいて、とてもうれしかったです。金封作りもしました。

1、2年生のときには、先輩に教えてもらいながらやっていましたが、3年生になってからは、自分で思い出しながらやれるようになりました。来年も丁寧に作業をしたいです。



### 作業学習担当教諭

今年度の作業学習は、完成までの全ての工程を一人で行うことになりました。名刺作りでは、キーボードやプリンターの操作など、思い通りにいかないことも多く、初めは戸惑っていましたが、先生方に名刺をたくさん注文していただき、励ましの言葉を掛けていただいたお陰で、自信をもって作業に取り組めるようになりました。高等部でも、中学部での経験を生かして、頑張りたいと思います。

### 職場（施設）見学

中学部3年 生徒・担任

2月28日（火）に、社会福祉法人 竹伸会 総合福祉施設 あけぼの園へ見学に行ってきました。事前に保護者の方と担任で伺い、施設の概要やサービスの種類について説明していただく機会も設けていただきました。当日は、活動の様子を見学させていただきました。大変アットホームな雰囲気の中で、多くの職員・利用者の方が声を掛けてくださいました。生徒も周囲の様子に耳を傾け、時に笑顔も見られました。1年生の頃、別の施設に見学に行ったときとは違い、大変落ち着いて見学する姿に成長を感じました。

生徒や保護者の方が、高等部入学後やその先の卒業後について考える良い機会となり、今後の進路選択のための新しい出会いとなりました。

### 進路講演会

### 中普部教諭

11月10日（木）に中普部進路講演会を行いました。講師として、株式会社スカイベイビーズに勤務されている今井裕子さんをお招きし、「視覚障がいをもってはたらく」と題して御講演いただきました。今井さんは弱視（視力0.1ぐらい）で、WEBデザイナーとして働いておられます。小学生の頃は視力0.5ぐらい、小・中・高・大学と一般校に通われていました。大学卒業後は株式会社カズマに就職されましたが、その後転職し、現在の職に就かれました。視力はその間に少しずつ低下し、現在の視力になったそうです。自分の障がいや見えにくさについての伝え方、そして、できることとできないことを伝えるだけでなく、改善案や代替案も同時に伝えることが大事であることなど、生徒たちにとって、今、そしてこれからも心掛けていく必要がある大切なことを、御自身の経験を交えて分かりやすくお話していただきました。最後に「大事なのは人と人との関係で、壁を作らず素直に、にこやかにいれば人は優しくしてくれます。」という温かい言葉をいただきました。聞いていた生徒たちの心に、とても響く内容だったと思います。今回の講演が、自らの障がいについて考え、どう生活していくかの参考になればと願っています。



### 進路講演会を聞いて

### 中学部3年生 生徒

今回の進路講演会では、今井さんのお話を聞かせていただきました。その講演で分かったことは、今のうちから勉強していくこと、そして、社会人で働くときなどには、自分の障がいを説明するときでも、何ができて何ができないかを言うことが大切だということが分かりました。

私はふだん、自分の障がいについて説明するときに、とても緊張し、かしこまった感じで言ってしまいます。今井さんは、「ポジティブな感じで、にこやかに言うことが大切」ということをおっしゃっていて、そうすれば相手も関わりやすくなるし、良い関係になれると思いました。

これから他の人と関わっていくときでも、そのことに気を付けながら頑張っていきたいと思います。

## 進路講演会の感想

普通科 1年 生徒

11月10日にデザイナーの今井裕子さんをお呼びして、進路講演会がありました。今井さんは生まれつき視力が弱かったのですが、小学校から大学まで普通学校に通い、今は株式会社スカイベビーズという会社で働いているそうです。

今井さんは、私たちに視覚の説明の方法や、社会での人との関係の作り方について、教えてくださいました。例えば、今井さんは障がいについて説明するとき、友達には「今、あの看板は見えるよ」というように具体的に、かつ、なるべく明るく伝えるようにしているとおっしゃっていました。逆に、会社では具体的にできることとできないことをしっかり伝え、特にできることをアピールした方が良いとおっしゃっていました。私は、自分の障がいについて具体的に話すのが苦手です。だから、もう一度自分の障がいを理解し、できることとできないことを知っておきたいと思いました。

この進路講演会で、ためになるお話がたくさん聞けました。将来社会に出て役立てていきたいと思います。そのために、今からできる準備はしておきたいと思いました。この進路講演会は、とても良い経験になりました。

## 普通科

現場実習 生活介護事業所オアシス 11月9日(水)

普通科 3年 生徒・担任

後期2回目のオアシスでの現場実習に行きました。初めはとても緊張していましたが、施設や利用者さんの様子をよく観察していて、だんだん表情も穏やかになっていきました。職員さんもよく話し掛けてくださいました。

午前中は他の利用者さんの入浴タイムだったので、教員と建物の中や周りを散策しました。館内のとても長いスロープを下って行くのが、楽しかったようです。午後からは、利用者さんと一緒にじゃんけんゲームをしました。3枚のじゃんけんカードの中から、1枚のカードをよく見て選んでいました。2回戦行い、2回戦目は一番になりました。卒業後の利用に向けてお互いを知る機会になり、オアシスでの生活の見通しがもてました。



11月12日（土）に福井県生活学習館でふくい産業教育フェアが開催され、理療科生徒2名がクイックマッサージブースにて施術を行いました。会場は福井県内の職業系高校に通う生徒や先生方、保護者などでにぎわっていました。クイックマッサージのブースにお越しいただいた高校生の皆さんと「盲学校ではどんな勉強をしているんですか？」「スマホのし過ぎで肩こりなんです！」などと、楽しくお話ししながら、クイックマッサージを体験していただきました。皆さんお帰りの際には、嘘のように体が軽くなったとおっしゃっていました。

次は、いよいよ全国産業教育フェア福井大会が開催されます。日時は令和5年10月28日（土）29日（日）の2日間、会場は福井県産業会館です。是非大勢の皆さんのお越しをお待ちしています。

### ～卒業生へのインタビュー～

現在、興和江守株式会社でヘルスキーパーとして勤務されている高山さん（専攻科理療科卒業生）は、盲学校時代、私と同じクラスで学ぶ同級生でした。今年、理療科職場見学で興和江守さんを訪問し、久しぶりに高山さんにお会いしたので、少しインタビューしてみました。以下、二人のやり取りをお楽しみください。（理療科 岡島教諭）

岡島：お久しぶりです。卒業して早15年が経ちましたね。お元気でしたか。

高山：お陰様で。今はほとんど見えなくなりましたが、子どもたちも成人し、孫も生まれて、おばあちゃんになってしまいました。

岡島：それはおめでとうございます、盲学校時代は、とても楽しいクラスでしたね。もう一人のクラスメイトに、よくいじられてましたけど（笑）。

高山：そうですね。あのときは子育てやらなんやらで、とても忙しい毎日で、あっという間の3年間でした。でも、国家試験直前の最後の追い込みでなんとか合格できました。岡島さんが作ってくれた試験対策も、とっても役に立ちましたよ。

岡島 : 少しはお役に立てて良かったです。ところで、お仕事はいかがですか。

高山 : 卒業後、江守商事さんで働き始め、現在は興和江守に社名が変わりましたが、引き続きヘルスキーパーとして働いています。自宅が会社から近いこともあって、1年目から通勤にタクシーを使わせてもらっています。以前は1年ごとの契約更新でしたが、現在は60歳まで一括で継続雇用契約をしていただきました。

岡島 : それはすごい。高山さんの日頃の努力が実を結びましたね。コロナの影響はどうか。

高山 : コロナ前は、1か月に延べ50人ぐらいの人に施術していました。やはりデスクワークなどで、肩こりで悩んでいる方が多いので、月に何回か来られる方もいらっしゃいました。皆さん、施術後は仕事ははかどるとか、会社でマッサージが受けられて幸せとかおっしゃってくださり、やりがいを感じています。コロナが広がり始めた頃は、3か月程自宅待機となりました。その後、会社全体のコロナ対策として、1階にあった施術所が5階に移動しました。慣れない場所で、安全のために移動の際は受付の方を呼んで手引きしてもらうことになりました。1年半ぐらい経って、ようやく元の場所に戻ることができました。現在は、施術後に次の利用者さんまで一定時間を空けて換気したり、念入りに消毒をしたりなど、様々な対策を講じて施術を再開しています。でも、利用者さんは以前に比べて少なくなりましたね。

岡島 : いろいろと御苦労もあったんですね。それでは、最後に進路だよりを読んでいる皆さんへメッセージをお願いします。

高山 : お陰様で体調を崩すこともなく、順調に仕事を続けています。会社の方もいろいろな面でサポートしてくださるので、とても助かっています。ただ、コロナが広がり始めた頃は3か月ぐらい自宅待機となり、一人で家にいる時間が増えました。その期間は家族以外としゃべることもなく結構精神的につらかったですね。今は元の生活に戻りつつありますが、仕事をしているお陰で、多くの人たちとのつながりが続けられているのは、とてもありがたいことです。これからも自分自身の健康に気を付けながら、利用してくださる社員さんの健康維持に努めていきたいと思えます。

岡島 : 本日は、どうもありがとうございました。

## 光道園・盲学校合同研修会

9月29日に、3年ぶりに対面で光道園・盲学校合同研修会を行いました。光道園から参加された職員の方々は、初めて盲学校に来られた方がほとんどで、視覚支援用具を使って学習している様子や校舎内の工夫等を見学、視覚支援用具展示室で様々な便利グッズを体験していただきました。その後、「視覚障がい者における情報ツールの活用」というテーマで研修を行い、盲学校のICT環境や実践事例を紹介しました。実際にiPhoneやiPadを用いてのアクセシビリティ機能の体験では、様々な機能に驚かれていました。最後に、生活の場である寄宿舎も見学していただきました。本校教職員には、光道園の職員の方より光道園の紹介や施設利用までの流れについて、講演をいただき、大変勉強になりました。今後も福祉と教育の現場で、協力し合いながら、活動を続けていきたいと思えます。

## 啓発活動

福井大学からの依頼で、障害者週間IN福井大学2022の一環として、12月9日にセミナーを担当しました。まず初めに「実践！こころのバリアフリー」をテーマに講義と見えにくさ体験、その後、会場である総合図書館内で手引き体験を行いました。講義の後の質疑応答では、参加者である大学教員の方から色使いの違いによるスライドの見え方について質問があるなど、皆さん大変熱心に聴講していただきました。また、手引き体験では、アイマスクをしたパートナーをどのようにしたら安全に手引きできるかを考えながら、体験してもらいました。始めは緊張していた皆さんも少しずつコツをつかんだようでしたが、ゴールに着いて緊張から解き放たれると、大きく息を吐くような姿も見られました。併せて、障害者週間期間中は総合図書館1階メディアコモンズで、盲学校の紹介ポスターや教材なども展示し、多くの方に御覧いただきました。今後も盲学校や視覚障がいについて、様々な形で啓発活動を続けていきたいと思えます。

## 春休みは進路を考える機会に！

新年度初めに「進路希望調査」を実施します。それに向けて春休みは、児童生徒・保護者の皆さん、将来の進路や生活について考え、話し合ってみてください。そして、進路目標・計画を立ててみましょう。1年間進路指導活動への御理解と御協力をいただきありがとうございました。

